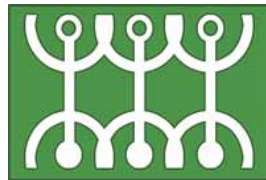


アフリカ



資源の開発と コミュニティの苦難



ニモ・バッチー
Environmental Rights Action/
Friends of the Earth, Nigeria

ナイジェリア:

ナイジェリア連邦共和国は西アフリカ沿岸に位置し、面積は923,768平方キロ。北はニジェール共和国、東はチャド及びカメルーン、そして西はベナン共和国と国境を接している。南はギニア湾。ナイジェリアはアフリカの中で、もっとも人口が多い国である。

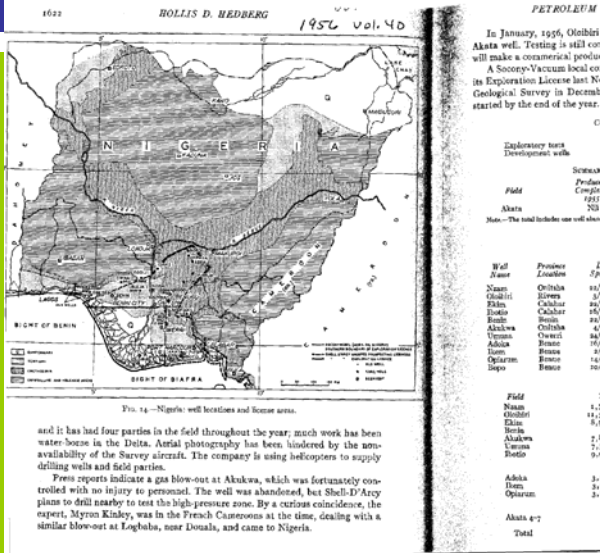


石油以前のナイジェリア

- 1950年まで、ナイジェリアの経済は農業が主要であり、GDPの72%を占めていた。当時、採鉱と原油はGDPのわずか1.1%であった。1960年までに、農業が66%、採鉱及び原油が1.2%、そして1970年までには原油がGDPの7.5%を占めるようになった。この比率は、過去数十年で大きく変化し、2006年には原油がGDPの61.2%を占めるようになった。

原油の台頭

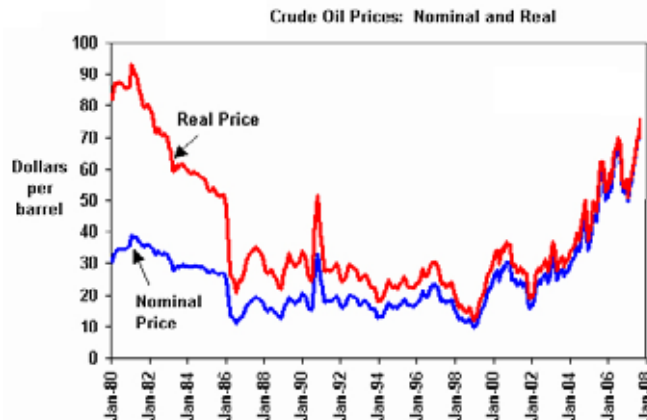
2008年2月17日、ナイジェリアの石油開発50年を記録した。2007年単年で、ナイジェリアは総額550億ドルの収入を得た。これは、OPECの加盟国の間で4番目に大きい数字であった。



埋蔵：推定は正確か？

- ナイジェリアの天然ガスの推定埋蔵量が100～170兆立方フィートとされる中、原油埋蔵量は360億バレルと見積もられている。
- これらは株主の信用と生産割当て増加を後押しするため、誇張されているのか？

原油価格はアフリカ全体の産業の拡大による



Adapted from U.S. EIA

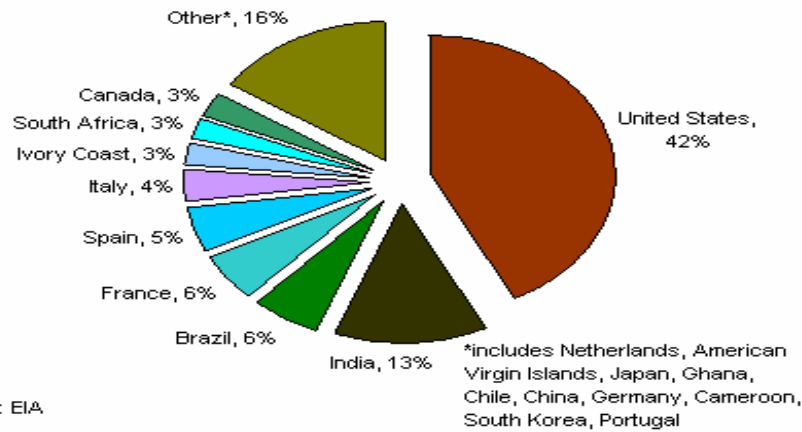
- 東におけるアメリカの利害だけでなく、
 - 中国
 - マレーシア
 - ブラジル
 - インド
 - 南アフリカ
- そしてこれらの新興国の力関係の間での興味深い連携

拡張地域



ナイジェリアの原油の輸送先

Breakout of Nigeria's Crude Oil Exports, 2006



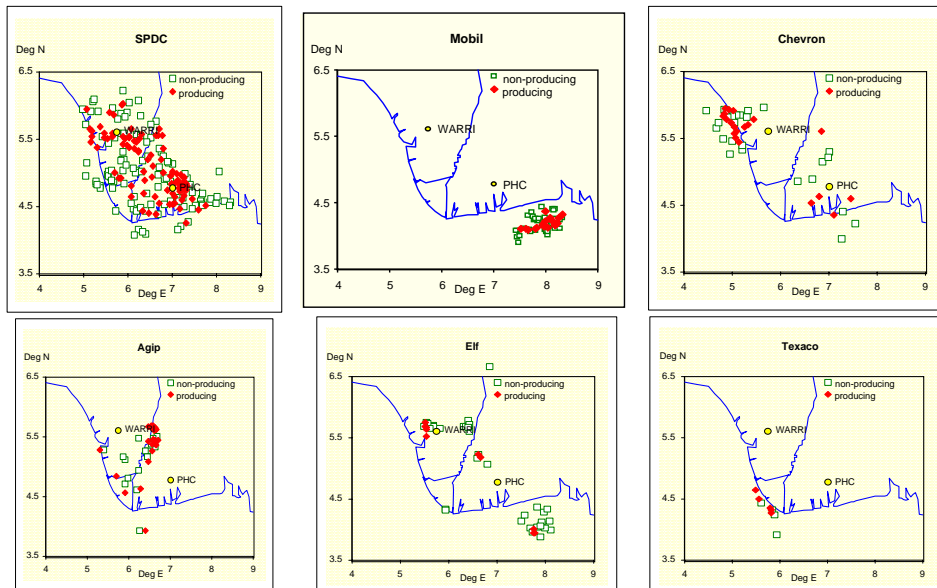
Source: EIA

2006年の石油企業による生産

- モービル - 221,669,211 barrels at 607,312.91 barrels/day or 25.50% of total
 - シェル - 165,647,792 barrels at 453,829.57 b/d or 19.06%
 - シェブロン - 136,323,859 barrels at 373,490.03 b/d or 15.68%
 - ELF - 79,061,353 barrels at 216,606.45 b/d or 9.10%
 - SNEPCO - 73,700,012 barrels at 201,917.84 b/d or 8.48%
 - NAOC/PHILLIPS - 53,931,186 barrels at 147,756.67b/d or 6.20%
 - ESSO EXPL. & PROD. NIG. LTD - 48,165,582 barrels at 131,960.50 b/d or 5.54%
 - ADDAX - 31,500,666 barrels at 86,303.20 b/d or 3.62%
 - NPDC/AENR - 21,360,219 barrels at 58,521.15 or 2.46%
 - CONTINENTAL OIL - 9,385,029 barrels at 25,712.41 b/d or 1.08%
- PAN Ocean, Express Petroleum, NPDC, Dubri Oilなど他企業。



石油メジャー6企業の地理的分布



破壊



- 石油産業は、今日のナイジェリアで、もっとも汚染の激しい産業と言える。2006年～2007年、全部で764件の油流出が報告された。ナイジェリア・アジップ・オイル社 (NAOC) は、264件の油流出を起こし、22,095.62バレルの原油が自然環境に流出した。エクソン・モービルは257件で544.75バレル、シェブロンは125件で第三位。シェルは同期間中、78件を記録した。

流出

- 事故の件数は、流出量の目安となるものではない可能性がある。
- 1980年のシェブロンの上での事故では、ギニア湾に400,000バレルの油が流出。
 - また別の大きな事故としては、シェルのフォルカドス・ターミナルでのタンク事故で、580,000バレルの油が自然環境に放出された。

コミュニティに対して破壊的である



露呈したもろさ

油流出



•政治的

開発の優先順位の変更
計画のための課題
汚職(オイルレント)
軍事化

•経済

飛地経済
「オランダ病」
原油価格の不安定さ
債務の増加

•社会 •環境

地震探査
採掘
インフラ及び交通
健康被害
生計の逼迫



環境影響：掘削



- 掘削汚泥 - 重金属の使用
 - オイルベース - 非常に有毒、ほとんどの国で現在は使用していない。
 - 合成ベース - オイルベースよりは毒性が弱い、有毒。企業秘密のため、毒性が明らかになっていない。
 - ウォーターベース - 合成ベースより毒性は弱い、廃棄物に多くの水銀を含むバライトを使用。
- 「掘削屑(カッティングズ)」 油井から取り出される堆積物
 - ひとつの調査井から出るカッティングズは4,000トンに上る。
 - ひとつの生産井から出るカッティングは22,000トンに上る。
 - これらの多くは井の周辺地域に投棄。
- 廃水及び廃油
 - これらは多くの有毒物質を含む。通常陸上の廃棄物貯蔵所に投棄。
- 掘削時の噴出
 - 深海など複雑な生産下ではよく起こる。
- ガス燃焼
 - 企業は、井に圧力を加えるため、もしくは、随伴ガス(市場に向けて生産したくない)を燃やすために燃焼させる。

ガス燃焼



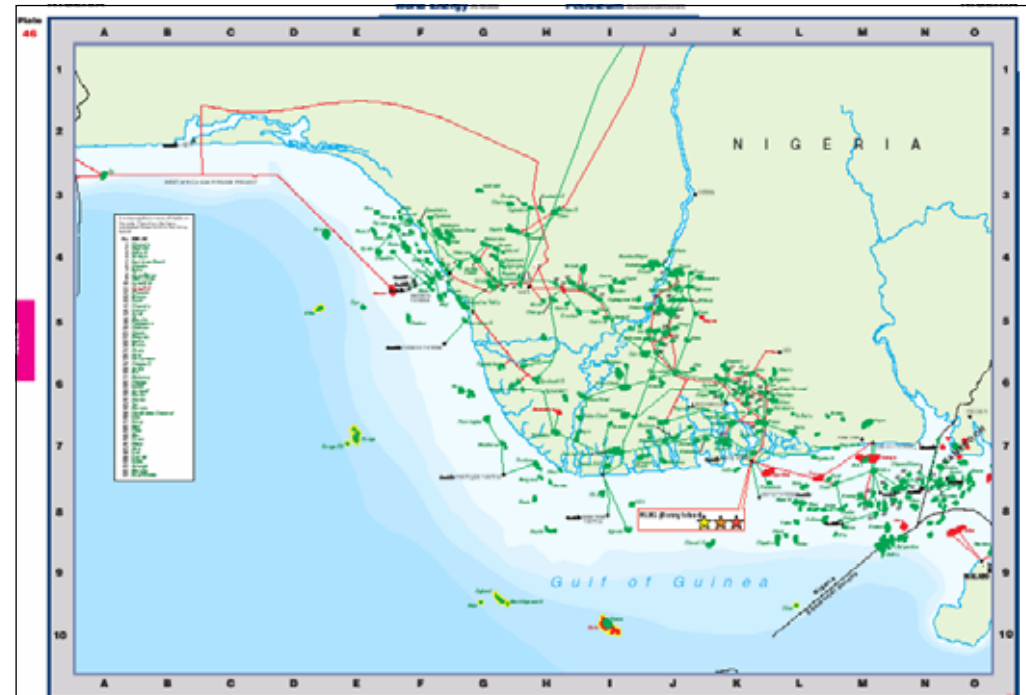
・ガス燃焼は、随伴ガスを燃やすこと。ガスは液化天然ガスとして利用することができるが、石油企業は50年もの間ガスを燃やすという危険な行為を定期的に行ってきた。

燃焼によって、白血病、気管支炎、喘息、心臓病、癌などの原因となる有毒化学物質の混合物が放出されてきた。



西アフリカガスパイプラインプロジェクト

- ・主企業：シェブロン
- ・主な融資者：世界銀行
- ・ナイジェリアのナイジェデルタで産出された天然ガスを、ベナン共和国、トーゴ、ガーナまでパイプラインで輸送するプロジェクト。ちょうど最初の輸送が行われたところである。
- ・プロジェクトに関する主な異議のひとつは、プロジェクト管理者がガス田及びパイプラインルートでの十分な環境影響評価を行う意思のないことに関係している。



西アフリカガスパイプラインプロジェクト

夢想

- 西アフリカガスパイプラインプロジェクト(WAGP)は、**貧困削減と収入創出の大きな解決策**とされている巨大なハイリスクプロジェクトが世界銀行の再興トレンドであることの明らかな例である。



「もし現在思い描くものとして実行されたならば、WAGPプロジェクトは土地に取り返しのつかない損害を与え、その結果12のコミュニティの生活を破壊すると考える」として、コミュニティが2006年4月、世界銀行のインスペクションパネルに異議を申し立てた。

コミュニティ行動

- 2005年7月、ナイジェデルタのいくつかのコミュニティナイジェリアの高等裁判所にガス燃焼の停止を求めて提訴。
- 2005年11月14日、シェルに対し、コミュニティのひとつでのガス燃焼を停止するよう判決が下る。
- 判決ではガス燃焼は「原告の基本的な生活の権利(健全な環境、人間の尊厳を含む)をひどく侵すものである」とされた。

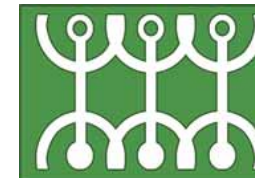


年間25億立方フィートの天然ガスがナイジェリアで燃焼されている。これは、年間25億ドル以上の損失を意味する。予測では、全ての随伴ガスのうち68%が燃やされている。これは地球上で燃焼されるガスの12.5%になる。

WAGPプロジェクトは、新たなガス田からのガスを利用するが、ガス燃焼を著しく減少させるものではない。

全てのアフリカ人は発展するための安全で、一般的に満足な環境への権利を有する。

- アフリカ人権憲章



• 環境は私たちの命...